

内科 腫瘍内科

病棟 東病棟 15F

外来 東病棟 4F

連絡先 022-717-7879 (外来)

ホームページ <http://www.co.idac.tohoku.ac.jp/index.html>



科長
石岡 千加史 教授

主な対象疾患

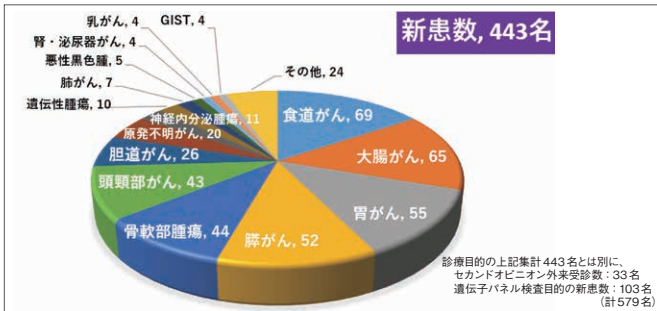
- 消化器癌
(食道、胃、大腸、肝胆膵)
- 骨軟部肉腫
- 悪性黒色腫
- 原発不明癌
- 頭頸部癌
- 乳癌
- 造血器腫瘍
- その他(悪性腫瘍全般)
- 胚細胞性腫瘍
- 遺伝性腫瘍

診療内容

私たち腫瘍内科は、主に進行がん、再発がんの患者の抗がん剤治療(化学療法)および合併症や副作用に対する支持療法を担当する専門科で、がんの薬物療法については、1969年当科開設以来取り組んできた日本で最も長い歴史を有する専門的診療科です。対象疾患は左下に示す通り、消化器系の悪性腫瘍が多くを占めますが、その他の臓器や希少がんの薬物療法も積極的に行っております。

東北大学病院は2006年に宮城県立がんセンターとともに宮城県の道庁がん診療連携拠点病院に認定されましたが、その指定要件に抗がん剤治療に関する専門的知識を有する医師の配置が義務付けられております。日本臨床腫瘍学会は2006年4月から抗がん剤全般について詳しい知識と豊富な経験を持つ医師として、「がん薬物療法専門医」の認定を開始しました。現在、全国で1,455名のがん薬物療法専門医がおりますが、そのうち私たちの診療科およびOBにおいて計33名が認定されております(2020年5月1日現在)。また、2008年度から「東北がんプロフェッショナル養成プラン」(文部科学省)において、がん薬物療法専門医育成のための腫瘍専門医コース(大学院医学系研究科)で実習診療科としての役割を担ってきました。2017年6月より、引き続き「多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)養成プラン」(文部科学省)に「東北次世代がんプロ養成プラン」が採択され、さらに専門医の育成に貢献しています。さらに、2018年2月には、がんゲノム医療中核拠点病院に指定され、当科は東北地方のがんゲノム医療の牽引役として貢献しています。

私たち腫瘍内科は、大学病院という高度な医療機関の特性を生かし、専門性の高い他診療科と連携しながら、患者にとってより良い治療が提供できるよう日々診療を行っております。また、将来的には、院内のみならず広域地域で連携するがん治療ネットワークの構築を目指しております。



疾患別患者数

診療体制

腫瘍内科は外来診療を東病棟4階、入院診療を東病棟15階(病床数27床)で行っています。当院の化学療法センターは全国の大学病院の中でも最大規模の31床を有し、専門性の高いスタッフのもと、患者にがんの薬物療法を安全かつ快適に受けていただくことができます。また、入院管理が必要な化学療法を受けられる方、通院治療が困難な重症な方は入院で診療いたします。患者が安全、確実な治療を受けながらより快適な病棟生活を保てるように、看護師をはじめとするメディカルスタッフや院内緩和ケアチームのサポートのもと、診療科全体で責任を持って対応しております。

得意分野

消化器がん、軟部肉腫を始め、さまざまな進行がんを対象として専門的な診療を行っており、常に最新のエビデンスに基づいた最適な治療をご提案しております。進行がんは治癒を期待することが難しい疾患であり、治療の主な目的は延命となりますが、患者さん、家族に寄り添い、患者さんの希望、価値観を尊重して、患者さん、家族のみなさんが納得できる治療を提供しています。また、新薬の治験や臨床試験にも積極的に参加しており、がんの治療成績の向上に向けた努力を常に行っております。近年、がん医療においてプレジジョン・メディシン(精密医療)の大きな話題となっております。腫瘍内科では東北大学病院個別化医療センターや腫瘍分子システム治療共同研究部門と協力し、分子生物学的な知識や研究成果を元に、クリニカルシーケンスによるがんゲノム医療を含めたプレジジョン・オンコロジー(精度の高いがん治療)にも積極的に取り組んでおります。



集合写真

ご紹介いただく際の留意事項

■現在、がんの化学療法を行うために病名告知は必要な条件として考えられています。ご紹介の際には可能な限り病名、病状がご説明されておられますようお願いしております。ご紹介先に迷う患者、集学的治療が必要ながん患者もご相談いただけましたら、検討させていただきます。